

令和5年度 学校評価 下半期（3月）

府中市立国府小学校

	中期（3年間） 経営目標	短期（今年度） 経営目標 (1/3)	目標達成のための手立て	評価指標	自己評価		学校関係者評価		改善計画
					3月 評価	結果と課題の説明	3月 評価	意見等	
確かな学力	自ら学びに向かい、これからの社会を生き抜く学力を身に付けた児童の育成	基礎的・基本的な知識及び技能を習得させる	<ul style="list-style-type: none"> 言語技術に係る資質・能力の育成をねらう朝の「ことばの時間」の指導内容及び方法を確実に実施できるようにする。 個の学習状況の実態に応じた学習内容の工夫により、学力の向上をねらう「One Up Time」の学習内容及び方法を確実に実施できるようにする。 個の習熟度に応じた内容で学習課題に取り組む「eラーニング（タブレットドリル）」の各学年の算数科の全ての単元内容の問題を確実に実施できるようにする。 認知機能の育成をねらう「コグトレ」を「One Up Time」と連携させ、継続的に実施できるようにする。 【教】 	<ul style="list-style-type: none"> ★①標準学力調査において、1回目の平均通過率を、2回目の平均通過率で5pt上回る。 ★②「ことばの時間」「One Up Time」「eラーニング（タブレットドリル）」「コグトレ」の内容及び方法の実施率100%達成する。 ★全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえた取組の工夫を全ての学年で教科指導及び帯タイムの学習で行う。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ①標準学力調査の通過率について、1回目と2回目を比較すると、国語が3pt、算数が1pt、理科が7pt低下した。 ②校内の学力向上に向けた各取組の実施率は100%である。 ③全国学力・学習状況調査の結果から明らかになった課題及び取組の方向性を校内研修等で周知し、評価指標①及び②の項目に係る内容の改善方針に関連付けながら取組を進めた。 	4	<p>3年生の理科の通過率に、国、県、市との開きがあるのは、生活科から、理科になったとき、「考えなさい。」だけでは、学力は定着しない。比較したり、類別したりするために、子供達に注目させたい言葉、考え方をしっかり教えていくことが大切である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学年が進むにつれて生じている児童の学力の二極化や学ぶ内容に対する見方、考え方の課題の克服のため、次にあげる視点で取組みの改善を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ① 学習への苦手意識の解消、学習の積み残しを無くすことをできるようにするために、児童の課題に応じた個別的な学力補充を進める。特に、特別な支援を要する児童への学習内容や学習方法を柔軟に選択、工夫する。 ② 本校の授業研究で重視するフレーム思考、振り返りの成果を国語科以外の教科に繋げる。 ③ 児童の学力及び学習状況を的確に把握し、取組みの工夫・改善に資する校内研修の充実を図る。
		自らの学びを振り返らせ、思考力・判断力・表現力を高めさせる	<ul style="list-style-type: none"> 対話の後や授業の終わりに振り返りを書く時間を必ず設ける。 単元末には、単元全体を振り返る時間を設け、有効だった学習方法を明確にし、次の学習へ繋ぎさせる。 【研】 	<ul style="list-style-type: none"> ★①振り返りの視点をもって、振り返りができる児童80%以上（児童アンケート） ★②「主体的に対話的で深い学び」に関するアンケートで、できていると判断できる児童を80%以上（児童アンケート） 	2	<ul style="list-style-type: none"> ①対話の後や授業の終わりに振り返りの時間を設け全校で統一した視点で振り返りを行わせたが、児童の自覚化は不十分であった。 ★①肯定的評価70% ②上半期の課題から友達の見解と比較することや友達の見解を取り入れることを重視した授業改善を図ることを校内で確認し合い、まずは、児童が自分の意見を持つよう指導した。 ★②肯定的評価87% 	3	<p>子供達の自己肯定感が高まることは、意欲にもつながるので、褒めることと、アドバイスをすることが大切である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○対話を通して、自らの学びを自覚化できるように、次にあげる視点で取組みの改善を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ① 振り返りの視点を子供も教師も明確にもてるように掲示し、ただ書かせるだけでなく、子供の良い振り返りを提示したり、肯定的評価をしたりする。 ② 対話の質を深め、学びの自覚化を図るために、対話についての研修を行い、校内で統一した指導を行えるようにする。
豊かな心 たくましい体	多様な関わりの中で、相手も自分も尊重し、よりよく生きようとする児童の育成	校内や家庭、地域等において、相手を思いやり、他者の役に立つこと等で、自己肯定感を高めさせる	<ul style="list-style-type: none"> そうじの終わりに反省会を行い、無言掃除とすみずみまでそうじをする意識化を図る。 無言ですみずみまでそうじをする児童の表彰を行い、無言そうじの機運を醸成する。 自分から挨拶（レベル3）をする児童の表彰を行い、校内や家庭、地域で挨拶の機運を醸成する。 学級や学年集団、及び全校の児童集団の関係性を高め、集団に対する貢献感、適合感、仲間意識を実感させる体験的・協働的な教育活動の工夫・改善を図る。 【生】 校内の教育相談体制の充実を図る。 【生】 	<ul style="list-style-type: none"> ★①「無言ですみずみまで掃除をしている」と回答する児童90%以上（児童） ★②「無言ですみずみまで掃除をしている」と判断できる児童90%以上（教師） ★③児童アンケートにおいて「自分から挨拶できる（レベル3）」と回答する児童を85%以上とする。 ★④「自分にはよいところがある」と回答する児童85%以上 ★⑤暴力行為、いじめ、長欠児童に係る諸問題について、昨年度の数値と比較して改善を図る。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ①教員が一緒にそうじをしたり、反省会をしたりしたことですみずみまでそうじをする意識を高めることができた。しかし、教師の見取りではまだまだ十分とは言えない。 ★①90%★②80% ③CS委員会の取組を行い、あいさつの良い児童や登校生の表彰を行ったことで、あいさつをする児童が増えた。 ★③85% ④コロナ禍が明け、行事で各学年が交流したり全校で集まったりすることが可能になり、他学年とのかかわりの中で達成感を感じる児童が多かった。高学年の活躍の場をさらに増やし、自己肯定感を高めていく。 ★④88% ⑤組織的に丁寧に粘り強く対応したことで、生徒指導事案等の問題を早期解決をすることができたり、長欠児童が登校できたりした。 ★⑤暴力行為3件、いじめ3件 長欠児童7名 	3	<p>子供達の無言掃除の意義の認識や、加えて、教職員の目的をどのように捉えて取り組んでいるかを大切にしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○相手への思いやりや他者の役に立つことで自己肯定感を挙げる取組について、児童が意味や目的も理解して主体的に取り組むことができるように次の工夫を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①そうじや挨拶をどのようにするのかを児童に考えさせ、それが何につながるのかという目的を児童自身に決めさせる。 ②各学級学年で集団作りを行い、それを行事などを活用して、協働して一つの目的を達成し、全校で高め合う。 ③長欠児童や暴力行為・いじめなど、未然防止の取組みを強化する。
		自分の健康に気を付け、基礎体力の向上を図らせる	<ul style="list-style-type: none"> 体力づくりカードを活用して、体力づくりへの意識を高める。 体育委員会で、遊びや遊び方の紹介などを行い、体力向上を意識させる。 夏季休業等を利用して、実技研修を行い、体育科の授業改善を図る。 【健】 	<ul style="list-style-type: none"> ★①新体力テスト（小5）において16項目中8項目で全国平均を上回る。 ★②児童アンケートにおいて「体を動かすことが楽しい」と回答する児童を80%以上にする。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ①1学期の課題を受けて、体力向上のために、職員に実技研修を行った。また、アスレチック大会等で新たな種目を増やすなど、児童の体力向上への意識を高める取組を行った。 ②児童アンケートでは「体を動かすことが楽しい」に対して、肯定的に回答した児童は94%であった。 	4	<p>持久力に注目してはどうか。学力には、体力も必要である。持久力は、日々の努力が必要であるので、これを粘り強さに繋げていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○体育の学習や日々の体力づくりにより楽しんで取り組むながら、結果としての体力が向上するように、について次にあげる視点で取組みの改善を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ① 体育科の授業改善・実技・理論研修を進めていく。 ② 体力づくりについて遊び方の紹介だけでなく、体育委員との遊びやペア学年での遊びなど、方法を工夫して楽しさを実感できるようにしていく。

※自己評価：評価基準に則り、4段階で評価し、記入する。 評価規準：100%以上＝4、80%～100%未満＝3、80%未満＝2、60%未満＝1として記入する。 ※学校関係者評価：9月の自己評価に対して自己評価結果が、適正である：○、適正でない：×、適正かどうか分からない：△として記入する。